

農業
はじめ
ました!



JAあまくさミニトマト部会
はらだ こうへい
原田 孝平さん(32歳・就農1年目)

ミニトマトの研修施設を開設 新規就農者や後継者をサポート

管内の大半を中山間地域が占め、大規模農業よりもそれぞれの地域に合った高品質な米、野菜、花き、果樹の生産や和牛繁殖が盛んなJAあまくさ。担い手確保や後継者育成にも積極的に取り組んでおり、2018年には栽培品種をミニトマトに絞った「JAあまくさ研修ハウス」を設置。次世代を担う生産者の育成・支援に力を注いでいます。

就農後も続くJAの手厚い支援 安心して取り組める環境に感謝

高校卒業後約10年間、県外で自動車製造に携わっていた原田孝平さん。「実家の農業を継ぎたい」と4年前に帰郷したものの、父親に農業収入だけで家族を養えるかを心配され、天草市農政課に相談しました。そこで紹介されたのが、始まったばかりの「JAあまくさミニトマト研修事業」でした。

Vol.274
JAあまくさ編

くまもとあぐりん

2年間の研修を経て、昨年7月に独立。「収穫する」1カ月前の栽培管理や収穫前日の天候が、ミニトマトの生育・風味に大きく影響する」と難しさを感じています。その一方で、消費者からじかに「こんなにおいしいミニトマトは食べたことがない」「ミニトマトは嫌いだけどこれなら食べられる」などの声を掛けられることもあり、やりがいにつながっています。同JAもそんな原田さんを全力で支援。農地やハウスなどの資材貸与や、日々の営農指導などで支えています。そうした数々のサポートのおかげで、原田さんは「安心して栽培に取り組める」と感謝を口にします。

研修時から原田さんの支援に当たっている同JA営農企画課の坂口恭平さんは「研修ハウスの1期生として、次に続く新規就農者のお手本になってほしい」と、成功を心から願っています。



県内JAの情報は
こちらから



耕そう、大地と地域のみらい。 JAグループ



【上】「魅力ある農業、やりがいのある農業を実践し、後に続く人を増やしたい」と、自身だけでなく天草の農業の活性化も願う原田さん(手前)と坂口さん
【下】日曜の午後は、いつも家族とお出かけしてリフレッシュ。趣味の釣りは、子育てなどで近頃は少なくなりました